

午後 I 試験

問 1

問 1 では、デスクトップ仮想化の企画段階における監査について、VDI 導入に向けた検討プロジェクトを題材として出題した。

設問 1 は、業務の変化に起因する VDI サーバ及びネットワークに掛かる負荷の変化に基づく解答を求めたが、システム資源やパフォーマンスへの影響のように、具体性を欠く解答が散見された。与えられた情報を基に、不足している具体的情報を識別する能力を身につけてほしい。

設問 4 は、一つの指摘事項に対し、二つの異なる観点からの改善提案を問うたが、(2)は、TCO 削減の観点からの改善提案を導けず、正答率が低かった。(1)は、正答率が高かったが、PC の段階的更新によって社内情報システムへのリモートアクセスの手段を残しておくといった、VDI 導入の理由を考慮していない解答が散見された。C 社がなぜ VDI 導入を計画しているのか、問題文から背景を理解して解答するよう心がけてほしい。

問 2

問 2 では、外部委託された情報システム関連業務を題材にして、情報セキュリティ管理状況の監査における要点、手続、改善提案などについて出題した。

設問 1 は、テストデータの受け渡しについて、業務委託元における受領の確認を監査要点として設定できるかを問うものである。しかし、題意に沿わずに、業務委託先への送付や業務委託先における受領を監査要点とする解答も散見された。

設問 3 は、業務委託先における情報セキュリティ教育の実施状況の確認を確実に立証するために、二つの資料を照合する追加的な監査手続において確認すべき事項を特定できるかを問うものである。しかし、題意に沿わずに、情報セキュリティ確認書の確認事項をそのまま記述した解答が散見された。

設問 4 は、業務委託先の体制変更時期と監査資料の作成時期の相違を考慮して、監査資料の十分性について理解しているかを問うものである。しかし、題意に沿わずに、再委託先に対する教育実施状況の確認についての解答も散見された。正答率は低かった。

問 3

問 3 では、システムの有効性の監査に関して、企業グループの経営情報システムを題材として出題した。設問は、プロジェクトリーダーなどによって実施されたシステム稼働後の利用状況に関する調査報告書の監査での取扱いを中心に設定した。

設問 3 は、調査報告書の監査証拠としての性格を問うものである。プロジェクト関係者によって行われた調査は、監査対象から独立した主体によって実施されたものとはいえ、たとえ調査が公正不偏に行われたとしても、その調査結果の客観性が担保されない。この基本的な考え方が分かっているならば解答できる問題であるが、正答率は高くなかった。“監査”の本質に関する知識・能力を身につけてほしい。

設問 4 は、既に具体的な問題点が明らかになっている場合に、監査手続によって確認する事項を問うものである。“登録が遅れる子会社や報告内容の不十分な子会社”があることの原因は種々考えられるので、多様な解答が見られた。しかし、設問では事業本部に起因する原因に限定されている。問題本文で事業本部と子会社のかかわりについての記述を抽出すると、事業本部の作業チームによる子会社に対する研修と、事業本部でのアクセスログによる利用状況の分析の 2 点であるところから正答を導けたはずである。